
■ さろん | Mail News 2017/3/15 | #87 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

「さろん」や哲学カフェ界限の情報をご案内いたします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも弊会を応援いただければ幸いです。なおメールニュース掲載のコラムは執筆者の個人的な考えを表したものであり、会や専門領域における統一見解とは異なる場合がありますのでご了承ください。

=====Vol.87 2017年3月15日(水)=====

さ | ろ | ん |
└ ─ ─ ─

M | a | i | l | N | e | w | s |
└ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

INDEX

- | 【おしらせ】(3/23) カフェ座談ゆるルーム
- | 【1】コラム/エッセイ
 - ◇『帰還不能点について考える』
 - ◇『恋愛と呪いと、愛の試練と』
- | 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています
- | 【2】コトバをハーバリウムする
- | 【3】さろんアーカイブの遊歩道
- | 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

- (3/23) カフェ座談ゆるルーム
- テーマ「充実した休日、のかたち」

通称『ゆるカフェ』。地味に営業中です。
今月のテーマは「充実した休日、のかたち」。

3月23日(木) 19:15-21:30 オープンです。

今月も例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしてみます。
ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで

3月23日(木) 19:15より

渋谷エリア(申込者にご案内)

参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み: salontetsugaku@gmail.com

(幹事: せりざわ)

【1】コラム/エッセイ

- | | |
|-----------------|--------|
| ▽【帰還不能点について考える】 | 一生 |
| ▽【恋愛と呪いと、愛の試練と】 | セリンジャー |

▽【帰還不能点について考える】 一生

英国の欧州連合離脱やトランプ氏の米大統領就任は世界にどんな影響を与えるのか*1。対談で早稲田大学長谷部恭男教授は注意を促す。「今年はいろいろなことが試される年になるでしょう。まずは、権力を分立し、おかしい党派にすべての権力が掌握されないように設計されている憲法システムや政治システムがトランプ次期大統領の暴走を抑えることが本当にできるかが試されます」。法政大学杉田敦教授が語る。「(ヒトラー政権を誕生させた)20世紀前半の危機については、じわじわと変化が生じ、どこで一線を越えたのかは、今も判然としない。……すでにわれわれは帰還不能な地点に差し掛かっているのか否か、わからない」。長谷部教授が応える。「帰還不能地点がどこにあるかは、今を生きる人にはわからない。ならばせめて私たちは、われわれの政治システムはそれほど頑丈にできていない、甘えてもたれかかっていたら壊れてしまうという自覚を持って、政治に向き合わなくてはなりません」。長谷部教授は、世界が(戦争等回避したい帰結からの)帰還不能地点がどこにあるかは今を生きる人には不可知であるという前提に立ち、自分自身の政治システムが脆弱であるという自覚を持って、政治に向き合う必要性を説いている。

東京大学山本良一名誉教授は語っている*2。「(地球温暖化に関する多くの新しい科学的知見の結果から)人類の産業経済活動が原因の気候変動によって大気、海洋の温暖化が生じていることはほぼ確実である。地球の気候システムの巨大な熱的慣性のためにある時点(ポイント・オブ・ノーリターン: 帰還不能時点)を過ぎると、たとえそれ以降温暖化効果ガスの放出を全面停止したとしても、それ以下に抑制したい気候ターゲットを突破して気温上昇は進んでしまう。このために“地球温暖化”問題へは可能な限り早期の対策が求められるのである」。山本名誉教授は、地球温暖化の原因は人類の経済活動で、帰還不能点を超えたら取り返しが付かない事態となるため、早期の対策を求めている。ではこの帰還不能点とは一体いつか。既に超えているのか、現在がそれなのか。客観的・物理的に把握ができるはずの科学の分野でさえも専門家の間で諸説があり、断言することは難しいようである。

帰還不能点は変曲点ではないか。それは、平面上の曲線で曲がる方向が変わる点のことで、その点を含む広い範囲で曲線を把握しないと特定できない。現在が帰還不能点であると認識するためには、広い範囲で過去と未来を俯瞰することが必要であり、未来の予測が欠かせない。だが、未来の予測はできても限定的であり、難しいとされる。だから、現在を帰還不能点と特定することが難しいのであろう。分かる方法はないのか。未来の一部でも予測できるようにするために、できるだけ過去の個別の出来事を体系的に分析・把握し、こういう事案がある条件下で起きればその後では必ずああいう事案が起きる、という法則の抽出（＝一般化）をすべく、科学者は元より歴史家も常に無意識に試みている*3。こういう不断の努力を続けていくしか方法はないのかもしれない。

*1：朝日新聞 2017 年 1 月 6 日：考論「混迷の世界 行く先は」

*2：山本良一著：2025 プロジェクトへのメッセージ

<http://2025project.heteml.jp/pc/column/005/>

*3：加藤陽子著：「それでも、日本人は『戦争』を選んだ」

▽【恋愛と呪いと、愛の試練と】 セリンジャー

——太陽は空へ放たれ僕らには地動説だけさみしく残る(植松大雄)

恋愛についてです。「恋愛論」(スタンダール)はじめ、恋愛論(哲学)と呼ばれる本って山ほどありますよね。本によってはけっこう興味深く読めるし何かしら得たり考えさせられることがあります。しかし実際の恋愛にはすぐに結びつかないように感じてしまうときがあります。実践に結びつける力がじぶんに無いだけかもしれませんが。ただ、恋愛論で取り扱われる恋愛がきわめて観念的だったり理想的な、範たる恋愛を追求している場合、その観念的な恋愛の完ぺきを称賛するあまり、現実の、二人で行う実践としての恋愛“関係”とのあいだで強いギャップを覚えたりしたことはありませんか。ひょっとすると、意外とあることなんじゃないのか、とおもったりもします。

世のなかには「処女としか結婚しない」という考えを持っているひともいるし、恋愛観(結婚観)は実にさまざまです。けれどそうした〇〇観こそがじぶん自身を縛り付けるある種の“呪い”だと気持ちよく喝破しているシーンが『逃げ恥』にでてきました。石田ゆり子演じる土屋百合は、みくり(新垣結衣)の母の姉でドラマのなかでは 49 歳という設定。ゴダールジャパン株式会社という外資系の化粧品会社の広報部に勤務しています。美人で昔からモテてきたのにいつのまにか婚期を逃してしまい独身で、「結婚まで守る」と決めていたため処女です。つまり百合は、恋愛を忘れ仕事に一生懸命に生きていたバリバリのキャリアウーマンという役どころです。その百合が、風見という年下イケメンと出会ってときめきを覚えた頃、風見を好きな 20 代女子・五十嵐杏奈(通称ポジティブモンスター)と対峙します。ポジモンから『(私は)お姉さんの半分の年なので』と嫌味を向けられて返した台詞が切れ味抜群でした——『自分の若さに価値を見いだしているのね/私がむなしさを感じることがあるとすれば、あなたと同じように感じている女性がこの国にはたくさんいるということ。今あなたが価値がないと切り捨てたものは、この先あなたが向かっていく未来でもあるのよ。自分がバカにしていたものに自分になる。それってつらいんじゃないかな。私達の周

りにはね、たくさんの呪いがあるの。あなたが感じているのもその一つ。自分に呪いをかけないで。そんな恐ろしい呪いからはさっさと逃げてしまいなさい』。聞きましたか！百合のこの台詞は、同じ呪いを背負う女性であるポジモンを仲間として正面から受け止める慈愛にも満ちています。百合は口ではこんな風に言うものの、風見との恋愛において『17歳も年齢が上だし』と、誰よりも年齢に縛られてもいる自分も痛いほど自覚しています。呪いの自覚と逃避の試み。自分らしく生き延びるためには、強烈な呪いとも戦わなくてはなりません。その姿勢は涙腺を見事に崩壊させました。

愛についての探求をひとつの柱とされている一生氏は、考察のなかでフロムの次のような箇所注目されています。孫引きになりますが引用してみましょう。——『愛は、人間のなかにある能動的な力である。人をほかの人びとから隔てている壁をぶち破る力であり、人と人を結びつける力である』*1。この箇所は比較的頷けます。しかしその後ろ、『愛によって、人は孤独感・孤立感を克服するが、依然として自分自身のままであり、自分の全体性を失わない。愛においては、二人が一人になり、しかも二人でありつづけるという、パラドックスが起きる』という箇所に掛かると、ひとによっては「？」が灯るかもしれません。これに続く『二人の人間が自分たちの存在の中心と中心で意思を通じあうとき、すなわちそれぞれが自分の存在の中心において自分自身を経験するとき、はじめて愛が生まれる。この「中心における経験」のなかにしか、人間の現実はない。人間の生はそこにしかなく、したがって愛の基盤もそこにしかない』という箇所はいかにも哲学者らしい見解を表明しているところですが、でもここに至ると「ちょっとなに言ってるかわからない」とツッコミを入れたくなるひともなかには出てくるでしょう。それはなぜか。観念的に愛を語る限りにおいてはその良さもわかるけれど、実際の恋愛・性交シーンにおいては少々現実離れしているように感じられるからかもしれません。これを共通理解とするようなパートナーを見つけるのは相当難しいでしょうし、共同実践していくことは尚更かもしれない。理念でお腹は膨らまないし、「知恵を見せつけるなら稼ぎを見せるのを先にして」と切り口上なシビアで現実的な女性もいるでしょう。ですが、だからといってフロムの恋愛論を否定する（否定できる）ということではありません。愛についての考察として耳を傾けるべき点は多いし、まなぶことも多い。しかし理念的観念的な、崇高な愛のあり方という網で愛を掬おうとすればするほど、その網から零れ落ちてしまう愛もまたあるだろう、というのが厄介なところです。

ここまで読んで「じゃあ、いまそこにある現在進行形の恋愛が、“真実の愛”であるかどうか確かめる術なんてあるのだろうか？」と思ったりしませんか。昔からそんなときにはフランス文学がよく読まれてきました。なぜか。よく言われるようにアメリカの恋愛がキリスト教的で恋愛には一途さや誠実さが大事とされているのに対し、フランスの恋愛は幾多の困難や試練の末に見つかるのが本当の愛だという気風が底流にあるのがひとつの理由でしょう。フランス文学の伝統のなかには「その愛は、真の愛か」「その誠実さ、真の誠実か」という問題意識があります。そのためにわざと「不真実に見える愛」「不誠実に見える愛」の試練を持ち出し、一見不真実・不誠実に見える愛のなかに真の愛を描き出すことも少なくありません。フランス文学の影響を受けた永井荷風や谷崎潤一郎も“愛の試練”という考え方をもっています。でも愛の試練はそれはそれはキツイものです。宮台真司氏は『フランス人の彼女が、「楽しいからすぐ来て」と恋人である自分を乱交パーティに誘ってきた。その後でこう言う。自分は少しも後ろめたいところがないから電話して誘ったのに、こっそり浮気するってことは、あなたには後ろめたいところがあるからよ、と。／その子によれば、本当のピュアは、見かけのピュアとは違う。自分がだれと寝ようとも、あなたに対する自分の愛は揺らがない。そういう私を信じられないのなら、あなたは、見かけだけで人の心を判断する、ただのヘタ

レだということだ。あなたの心は弱すぎる』*2 という自身のエピソードを綴っています。どうですキツイでしょう。『春琴抄』*3 などの物語や恋愛映画*4 を通してもその一端がうかがい知れますが、愛の試練に臨むというのは一切の妥協を排した全身全霊の振る舞いです。かつて瀬戸内晴美氏は夫と子どもを残して愛人と出奔し、その行為の供養に残る生涯を捧げています。多くの小説を書き、出家したことも彼女なりの愛の試練の後始末であり、彼女のようなひとが「生きた。愛した。」というとき、そのことばに血肉がかよひ蠢き出すのを感じないわけにはいきません。そういう目で『美德のよろめき』や『雪国』や『死の棘』なんかを読み返してみても、すごく発見があるかもしれません。

1) : 一生 (2016) 「愛することについて想う — 『愛の試み』 解題 2—」

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2016/12/81_Mail_News_20161217.pdf

2) : 宮台真司 (2015) 『中学生からの愛の授業』

3) : セリンジャー (2017) 「美と〈欲望〉の結節点を編むこと — 谷崎潤一郎『春琴抄』について—」

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2017/03/hondana_66.pdf

4) : 芹澤 (2011) 「映画の恋心」

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/06/1_Mail_News_20110611.pdf

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称 : 【さろんラボ】

コーディネーター : 【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

この「さろんラボ」からは、さろんの参加者の手で、

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/> が生まれ、

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティテーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/> も生まれました。

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当 : 大村)

【2】

コトバをハーバリウムする #17 (た・の)

本のコトバから

強いて説明せよと言われるならば、余が心はただ春とともに動いていると言いたい。あらゆる春の色、春の風、春の物、春の声を打って、固めて、仙丹に練り上げて、それを蓬莱の靈液に溶いて、桃源の日で蒸発せしめた精気が、知らぬ間に毛孔から染み込んで、心が知覚せぬうちに飽和されてしまったと言いたい。

——夏目漱石 『草枕』

歌のコトバから

You can crush the flowers
But you can't stop the spring
No matter what you say

君は花々を台無しにすることはできるだろうね
だけど、春に待ったをかけることなんてできこないんだ
なんて言おうともね

——THE FLAMING LIPS 『Can't Stop The Spring』

【3】

さろんアーカイブの遊歩道 #11 (楠)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第13回、第63回

テーマ： 「自由とは何か?」「自由とは」

開催日： 2011年9月20日、2015年11月21日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/01/salon_giji_13.pdf

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2016/12/salon_giji_63.pdf

「フィルターがあるからこそ、その条件が新たな領域へと拡張され、発見ができると自由を実感する。自由は、フィルターの条件緩和、領域拡大がどれだけできるかという相対的なものである。」(第13回)

「束縛があるから自由の価値がある。制約こそがインフラである。制約されることで何をすべきかが示される。」(第63回)

ある概念を説明する時にそれと反対の概念を否定する形で「～でない」「～がない」という言い方を私たちはよく用いる。これは自由に関する上記の意見に関しても当てはまる。自由の対概念としてのフィルターや束縛、制約。その否定・あるいは解放としての自由。こういった表現の妥当性は認めつつ、一方でどこかもどかしさを感じる自分がいる。コインの裏に何が書いてあるかを尋ねて「表に書かれていない何か」と答えが返ってくるような、正しいけれども納得できない割り切れなさ……。自由が人の思考の産物であること、そして自己の肉体と精神の射程の内にはしか思考は存在しないことを考え合わせれば、自由を制約や束縛から切り離して捉えることの困難さが窺い知れる。難解である。弊会で自由と再び格闘するのは2019年頃になるだろうか。

編集後記

メールニュース第87号をお届けします。

こんにちはフクロウです。

じぶんが鼻であるからだとおもうんだけど、鼻グッズを見かけると「ハッ！」と手に取ってしまいます。かわいくないですか？鼻のグッズって。

茨城に木内酒造さんの「常陸野ネストビール」っていう銘柄のクラフトビールがあるんですけど、ラベルの意匠がかわいい鼻で胸キュンです。<https://hitachino.cc/>

ビール飲むときはいつもこれにしたいくらいですけど値が張るんですよね。プチ贅沢なビールですが、お花見のときにはぜひ飲みたいなと今のプチたのしみです。

そういえば。現在放送中のドラマ『カルテット』の主人公のひとり、松田龍平が勤めているのが「ふくろうドーナツ」。劇中に出てくる手ぬぐいやTシャツとかのグッズがまたかわいいんです。もしかするとこの春は鼻グッズが大流行するのかも？！

さろんはこの春も絶賛展開中。こちらのフクロウにもぜひ遊びにいらしてください。

それではまた次号でお会いしましょう。ほう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2017/3/15

⇒次号 (4月1日発行予定)

さろん Mail News 第87号 / 2017年3月15日発行【読み物号】

編集・発行: さろん

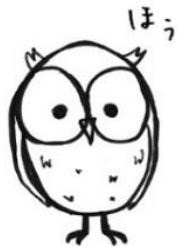
salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

-
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、
当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
 - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。 転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHP からご覧いただけます。
 - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
 - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
 - ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2017 さろん. All rights reserved."
